

登録コード	E7163400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究						担当教員	高柳 充利
英文授業名	Graduation Thesis						副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観について自分なりに考えを深めることができるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能について自分なりに考えを深めることができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	特に教育哲学の分野における学術論文の基本的構造と手法を概観し、各自が教育に関するテーマを設定し作成をすすめることを促すとともに、他者との関わりのおかげで自律的かつ協働的に研究を展開することにも注意を向ける。							
(5)授業計画	第1回:授業の目的と予定、受講上の注意、成績評価の方針。 第2回:学術論文の基本的構造 第3回:学術論文の手法 第4回:テーマ設定(1):関心の所在 第5回:テーマ設定(2):教育との関連 第6回:研究調査の手法(1):文献の収集と整理 第7回:研究調査の手法(2):分析と考察 第8回:学術論文の作成(1):全体の構想 第9回:学術論文の作成(2):引用と見解 第10回:学術論文の作成(3):文脈と独自性 第11回:事例検討(1):口頭発表の手法 第12回:事例検討(2):外在的批判と内在的批判 第13回:学術論文の推敲:批判的乗り越え 第14回:学術研究の展開:継続と変容 卒業論文の提出 受講者の関心や授業の展開等により順序や内容に変更が生じることがある。 第14回は授業アンケートの実施を含む。 教育実習における欠席分の補講については、欠席する回の担当教員に事前に申し出て指示を仰ぐこと。							
(6)成績評価の方法	成績評価は次のような事項を参考に行う予定であるが、受講の状況によって調整・最適化を図る場合もある。 ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観をもって(そして同時にそれらについて)、教育を哲学することを実践する卒業論文の提出1回(およそ90%) ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観をもって(そして同時にそれらについて)、教育を哲学することを実践する対話への参加14回(およそ10%) ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(7)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり,(ii) その問題の背景を説明できており,(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており,(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており,(v) その上で自分の見解を提示できており,かつ,教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。							
(8)事前事後学習の内容	事前学習:授業計画で示された事項について、関連文献等を用いながら日常的に構想・執筆をすすめること。 事後学習:授業で扱われた事項について、関連文献等を用いながら日常的に構想・執筆をすすめること。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。 従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。							
(9)履修上の注意	授業時間以外において各自の関心に基づき適宜学びを深めることが求められる。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	【高柳】オフィスアワーの実施場所: N316, 曜日・時間(在室の時はいつでも)。連絡先(研究室電話番号: 026-238-4215, メールアドレス: takayana@shinshu-u.ac.jp)							
【教科書】	指定しない。							
【参考文献】	小笠原喜康著『最新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社, 2018年)800円							

【参考文献】	沢田昭夫著『論文のレトリック』（講談社，1983年）1,188円
--------	----------------------------------